

禅

28号(通卷208号)



毎朝坐禅をされる小川先生

幸せな人生を送るために

山本 玄性

人間は幸せな人生を送るために、この世に生まれて来たと思っております。そして、より良い人生を送りたいという欲求を持って誕生いたしました。人間は、より良く生きたいという欲求により、35億年前のアメーバーより進化し、また進化し、進化し続けるという壮大なロマンのDNAを持った生き物であります。

その間、数々の試練に直面しましたが、これに屈することなく逆にそのピンチをチャンスとして捉え、進化し続けた結果、今日のようなより良く生きる仕組みを持った人間に成長したのであります。

人間の欲求について、マズロー(心理学者)は「5段階の欲求」として説明しております。

まず、生命を維持する為の「生理的、生物的欲求」。つまり、食欲、睡眠欲、そして種族維持のための性欲であります。

次に「安心安定の欲求」。同じ生きるならば、日々を安心もしくは安定したいという欲求であります。安心、安定した生活をするには、単独ではなく集団生活の方がより良いと考えるようになり、村や部落を形成し、集団生活が始まりました。

人が集まると、仲間と仲良くしたい、集団の一員として認められたい。また人々のお役に立ち、人々から評価され尊敬され、集団で楽しく過ごしたいという「社会的または承認の欲求」といわれるものが生まれます。ここで満足すれば一応幸せのように思えますが、人間の欲求も進化しより高度なものになります。

そして次に生まれたのが「自我の欲求」です。人はそれぞれ、独自

の価値観にあった人生にしたいというものです。そして、自分自身が己の生き方を評価し満足したいのであります。

最終段階のものは「自己実現の欲求」であります。この欲求は、人間としてすばらしい人になりたい、立派な人間としてより価値のある人生を送りたいというもので、私は人間形成の欲求と考えております。

そしてこれらの欲求は、ヒエラルキーを形成し、その段階がある程度満足すると次の欲求に進みます。

私共の日々の活動は、この欲求を満足させようと、日夜、早朝から夜遅くまで東奔西走しております。世の中は、政治、経済は勿論、個人の生活も大変なスピードで変化し、かつグローバル化によって、広域かつ複雑で予測し難い変化に翻弄されております。

それだけに、人間の欲求を満足させることは至難のことであり、これより生ずる不満やストレスが、各々の個人に重くのし掛かっておるのが現実です。その結果、精神的障害を持つ人が増加し、従来考えられなかったような事件が多発しております。

このような状況を打破し、人間らしい社会に立て直すのが宗教の力であると確信いたします。今日ほど、宗教つまり心の問題の解決が重要視される時代はないのではと思います。

宗教には、三つの重大な役割があると考えます。

まず第一は、安心立命の境地にいざなうことです。人は通常、意識しておりませんが、この世に生を受けたものは、必ずいつかは死ぬという事実を知っております。無意識の中で、死んだらどうなるのか未解決のまま、日々生活しております。これを迷信でなく、現代の人々が納得できる教理があることが大事です。実際に安心立命できることです。

第二は、宗教の教理やシステムに従って、修行を進めることにより道眼が開け、道力が養成される。また実社会において自分の夢を実現させる力が付き、かつ社会の平和と発展に貢献する。自利利他の活躍のできる人づくりという重大な役割であります。

第三に、私共の身体は、環境の変化に対応できるように進化してきました。それとともに、人の欲求も進化し、次々と高次元のものを求めます。これは、人間の性であります。従って、満足するよりも不満足が増加し、ストレスが蓄積され諸々の不幸の原因になっております。これに対し、教理を学び修行することにより、人生とは「これで良いのだ。それだけのこっちゃ」と、欲望の充足感とはこんなものだと納得し、合点、合点して救済され、また救済する。これもまた、重要な役割であります。

本物の宗教とは、以上の役割を果たすべき教理と、人間形成のための修行のシステムを持ったものです。

我が人間禅には、このすばらしい教理と、これを会得するシステムが整備されております。その中で修行できる幸せを心より有難く、また誇りに思っております。

望むらくは、多くの人々が入門され幸せな人生を送られるならば、この上ない喜びであります。 合掌

著者プロフィール



山本玄性（本名 / 隆造）

昭和10年、北九州市生まれ。大平紙業KK専務、同代表取締役社長、同会長を歴任。現在同社相談役。昭和48年、人間禅立田英山老師に入門。現在、同教団師家。庵号 / 断弦庵。